

5. 緑の市民意向調査

本計画の策定にむけて実施された緑に関する基礎調査の一環として、平成14(2002)年1月に緑に対する市民意向調査を実施しました。その結果の概要を以下に整理します。

表5-1 アンケート調査の概要

調査期間	平成14(2002)年1月15日(月)～2月1日(金)
調査方法	アンケート調査票を郵送配布・郵送回収
調査対象	18歳以上の市民(H13年3月末現在の住民基本台帳人口100,150人から抽出)
回収率	48.0%(配布数2,430、回収数1,167)

表5-2 調査結果の概要

緑への満足度	住まいのまわりでの緑の満足度については、市全体では満足度の高い結果となりました(「満足」、「やや満足」が65.0%)。地域別では東南部が最も満足度が高く、次いで新市街地の金剛、金剛東地域が高いのに対して、旧市街地では満足度が低い結果となっています。
あればよいと思う緑	「街路樹、緑道などの緑」が38.4%と最も多く、次いで「大きな公園の緑」(27.5%)、「身近な公園や空き地の緑」(26.8%)の順となっています。
本市において守り育ていくべき緑	「家の周辺の身近な緑」(56.0%)が最も多く、次いで「公園や広場の緑」(46.9%)、「水辺の緑」(21.0%)、「丘陵地の緑」(18.0%)と続いています。
本市の緑づくりの目標	「生活の快適さを与える緑を作る」(39.8%)が最も多く、次いで「まちの景観を美しくする緑を作る」(34.4%)、「生き物との共生に役立つ緑を作る」(27.7%)、「緑の中に市街地があるような緑を作る」(25.3%)等が目標としてあげられています。
整備すべき公園	「四季の変化が感じられる公園」(59.4%)が最も多く、次に「住まいの近くの身近な公園」(28.0%)、「芝生広場など広い空間のある公園」(22.0%)、「図書館等文化施設と一体である公園」(17.9%)の順となっています。
緑豊かなまちづくりのためにできること	「家の緑を外からも見えるようにする」(46.4%)が最も多く、次いで「街路樹の清掃や管理に参加する」(33.7%)、「プランターなどを道の脇におく」(30.7%)、「まちかどに緑を作る」(20.9%)が上位にあがっており、街路樹等身近な場所の緑の管理については、一定の参加が見込まれる結果となっています。
緑豊かなまちづくりのために行政がすべきこと	「公園・広場などの整備や管理」(47.3%)、「街路樹の充実」(37.6%)、「里山や農地の緑の保全と活用」(27.3%)、「水辺の緑の保全と活用」(21.8%)等、緑地の保全・整備・活用に関する項目が上位にあがっています。
緑化活動への参加希望	「自宅の庭やベランダに木や花を植える」(53.3%)が最も多く、次に「公園の除草や水やりなど」(23.3%)、「緑化に関する講習会に行く」(14.9%)、「近所の空き地に木や花を植える」(12.7%)、「身近な自然林や空き地の除草清掃等」(11.7%)の順となっています。

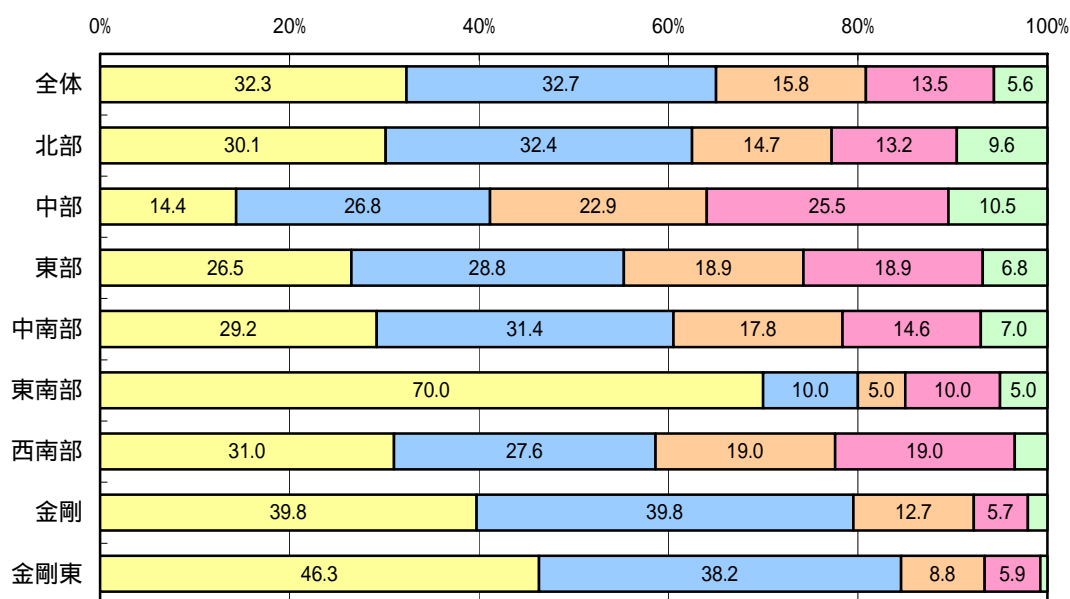
緑への満足度

住まいのまわりの緑への満足度についての質問には、全体では「満足」「やや満足」と答えた人が65.0%にのぼり、「やや不満」「不満」をあわせた19.1%を大きく上回りました。

地域別では、旧市街地に相当する中部地域で満足度が低く、「満足」「やや満足」が41.2%であるのに対して、「やや不満」「不満」が36.0%にまで達しています。

逆に、計画的に緑を取り入れて開発された大規模団地が中心の金剛地域、金剛東地域では満足度が高く、それぞれ79.6%、84.5%の人が「満足」「やや満足」と答えており、不満だと答えた人は10%にも満たない結果となりました。また、土地利用面で農地・山林が大部分を占める東南部では、70.0%の人が「満足」だと答えています。

図5-1 緑への満足度



□満足 □やや満足 □どちらともいえない □やや不満 □不満

地区区分図

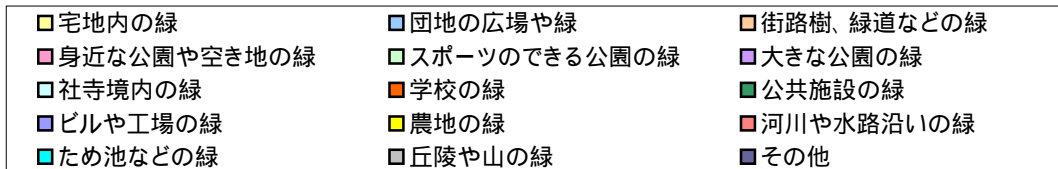
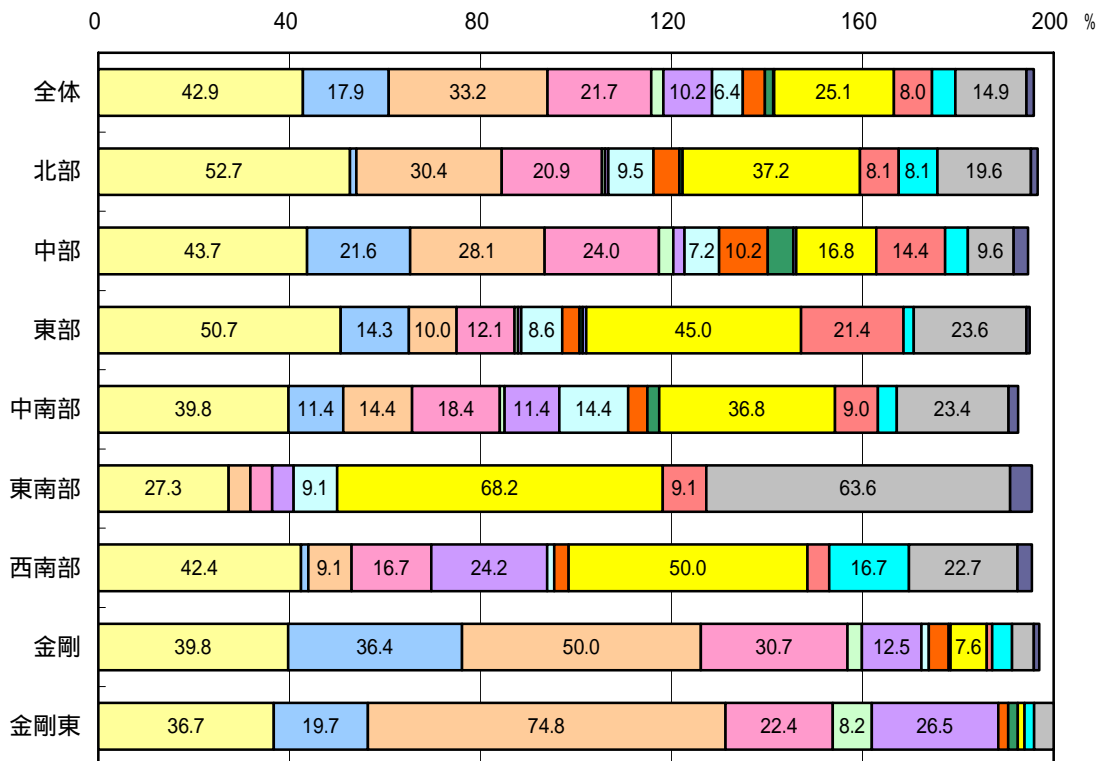


住まいのまわりに多い緑

全体では「宅地内の緑」(42.9%)、「街路樹、緑道などの緑」(33.2%)、「農地の緑」(25.1%)の順となっています。

地域別の第1位をみると、古くからの住宅地や、開発地でも戸建て住宅の多い北部・中部・東部・中南部では「宅地内の緑」、農地が多い東南部・西南部では「農地の緑」、大規模な集合住宅が多く道路整備等が進んでいる金剛・金剛東では「街路樹、緑道などの緑」となっており、地域の特徴がよく現れた結果となっています。

図5-2 住まいのまわりに多い緑



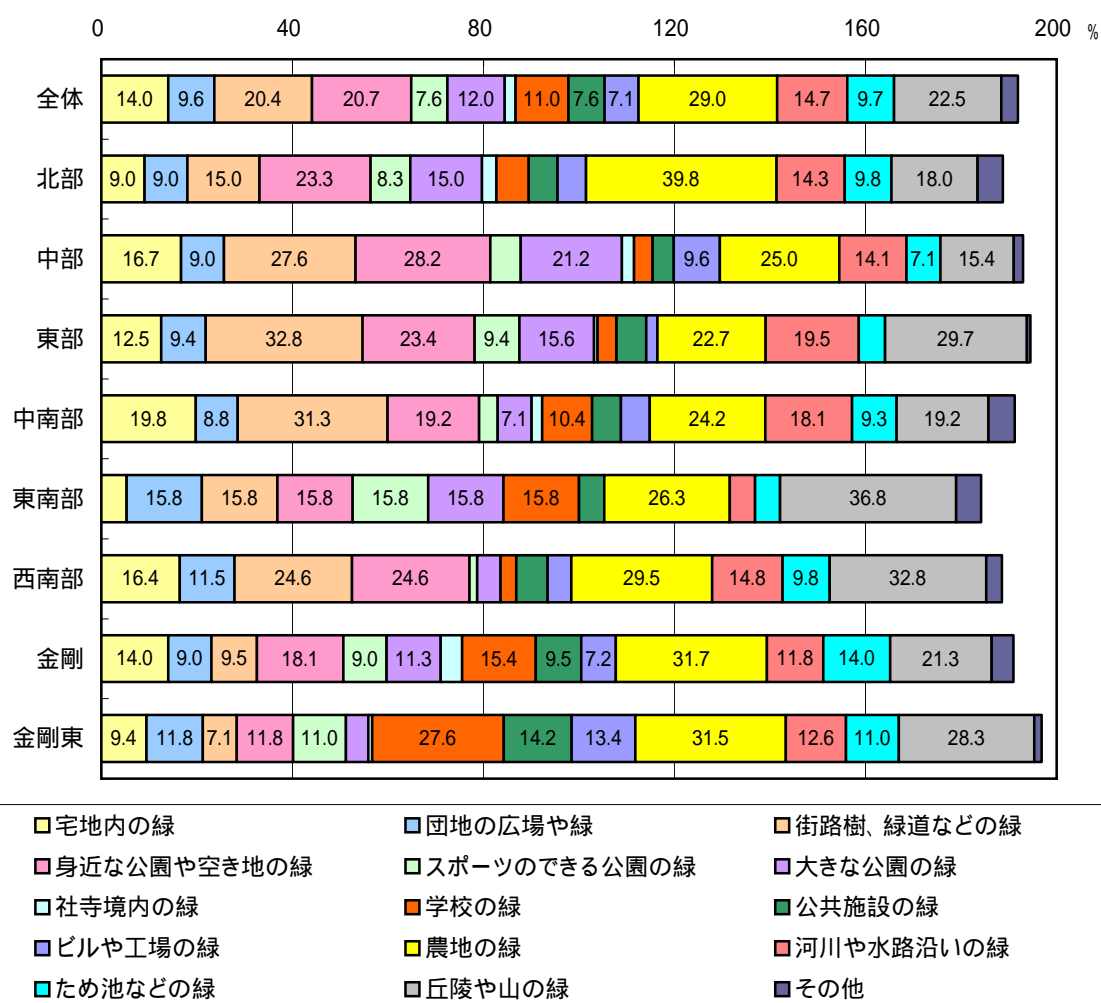
減少している緑

全体では「農地の緑」(29.0%)、「丘陵や山の緑」(22.5%)、「身近な公園や空き地の緑」(20.7%)、「街路樹、緑道などの緑」(20.4%)の順となっています。

地域別でみると、「農地の緑」が第1位に挙げられているのは北部・金剛・金剛東で、とくに北部では40%近い人が挙げています。

「丘陵や山の緑」が第1位に挙げられているのは東南部・西南部で、「街路樹、緑道などの緑」が第1位に挙げられているのは東部・中南部です。

図5-3 減少している緑

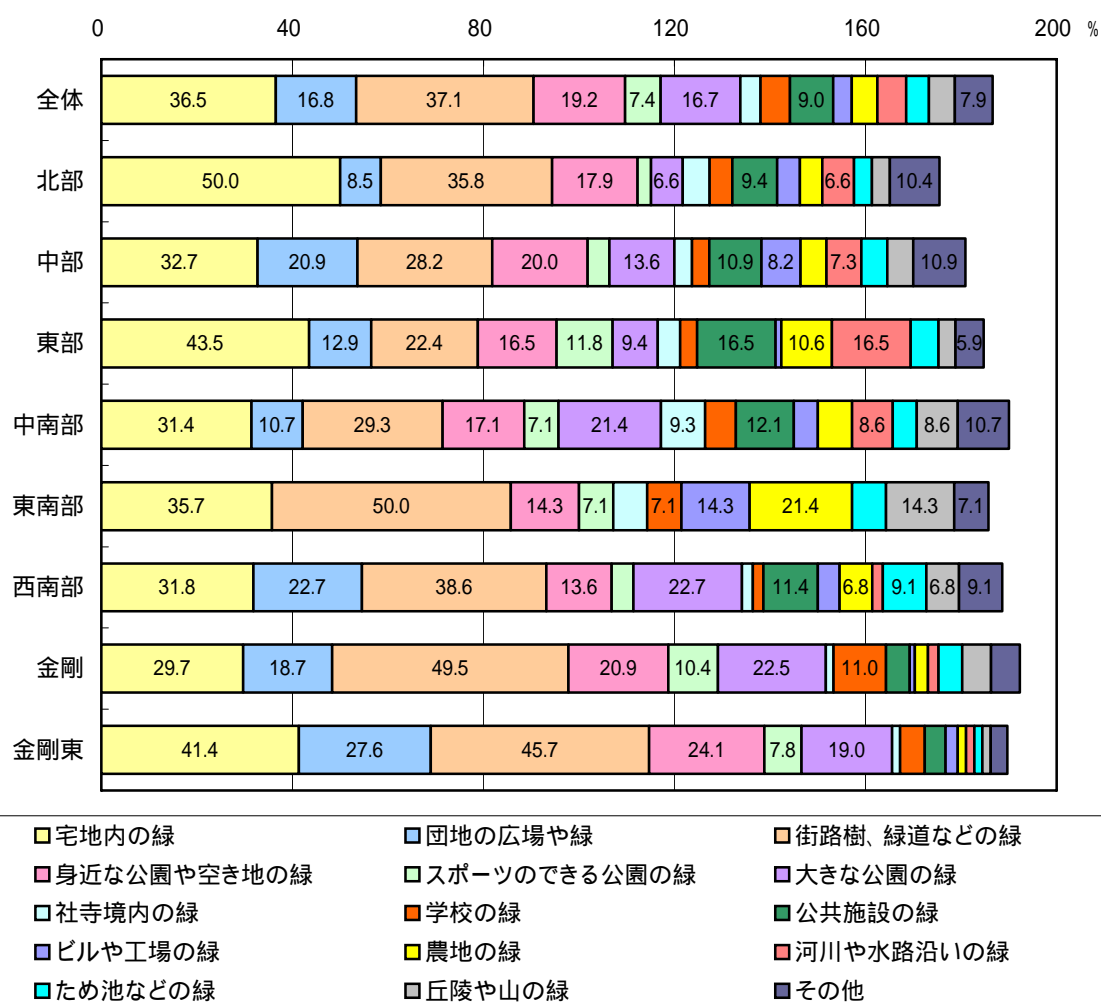


増加している緑

全体では「街路樹、緑道などの緑」（37.1%）、「宅地内の緑」（36.5%）が多く、やや落ちて「身近な公園や空き地の緑」（19.2%）、「団地の広場や緑」（16.8%）、「大きな公園の緑」（16.7%）と続いています。この中で、「街路樹、緑道などの緑」は、減少している緑についての設問でも上位に挙がっています。

地域別でみると、「街路樹、緑道などの緑」が第1位に挙がっているのは東南部・西南部・金剛・金剛東で、「宅地内の緑」が第1位に挙がっているのは北部・中部・東部・中南部です。

図5-4 増加している緑

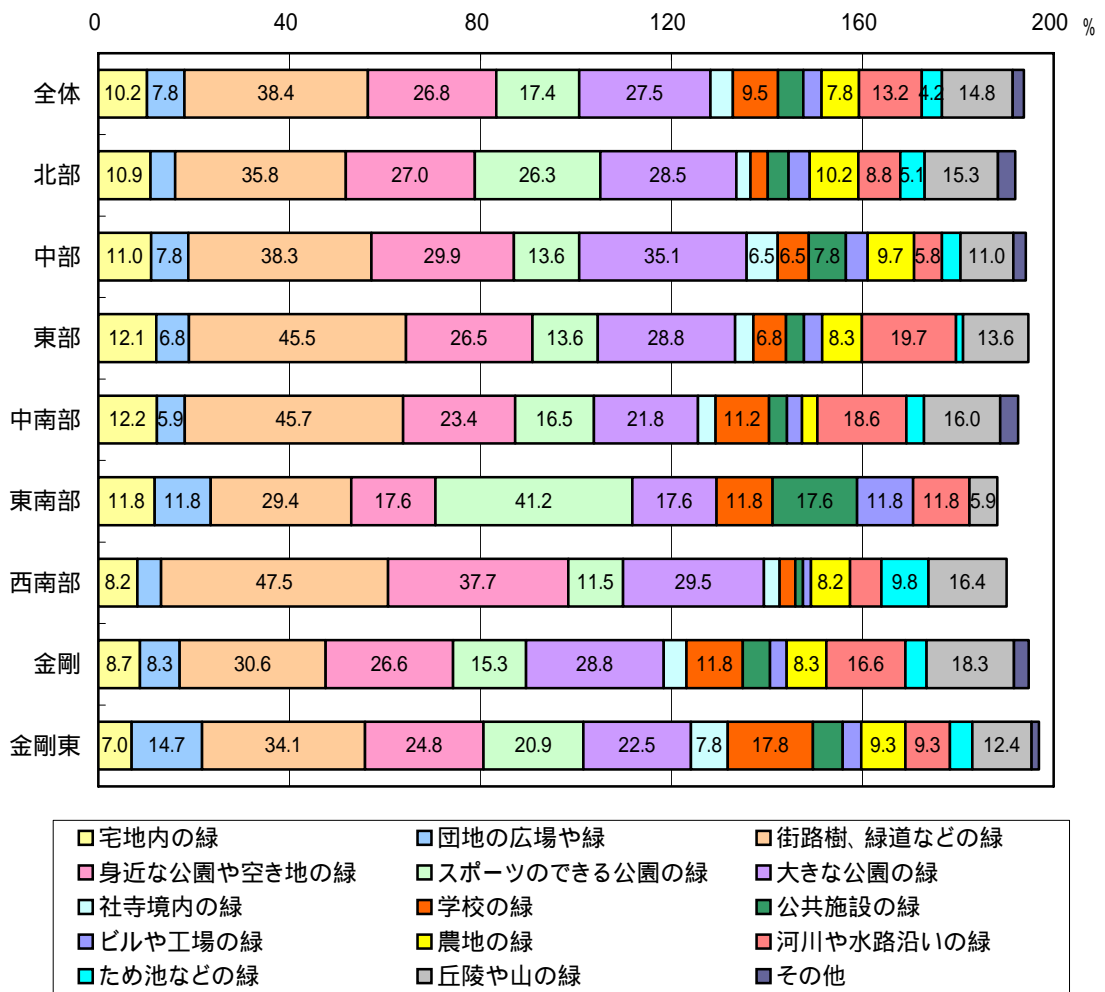


あればよいと思う緑

全体では「街路樹、緑道などの緑」（38.4%）、「大きな公園の緑」（27.5%）、「身近な公園や空き地の緑」（26.8%）の順となっています。

地域別でも、東南部を除くすべての地域でこの3つが上位に挙がっており、身近なところで日常的に接することのできる公共の緑が望まれていると言えます。

図5-5 あればよいと思う緑

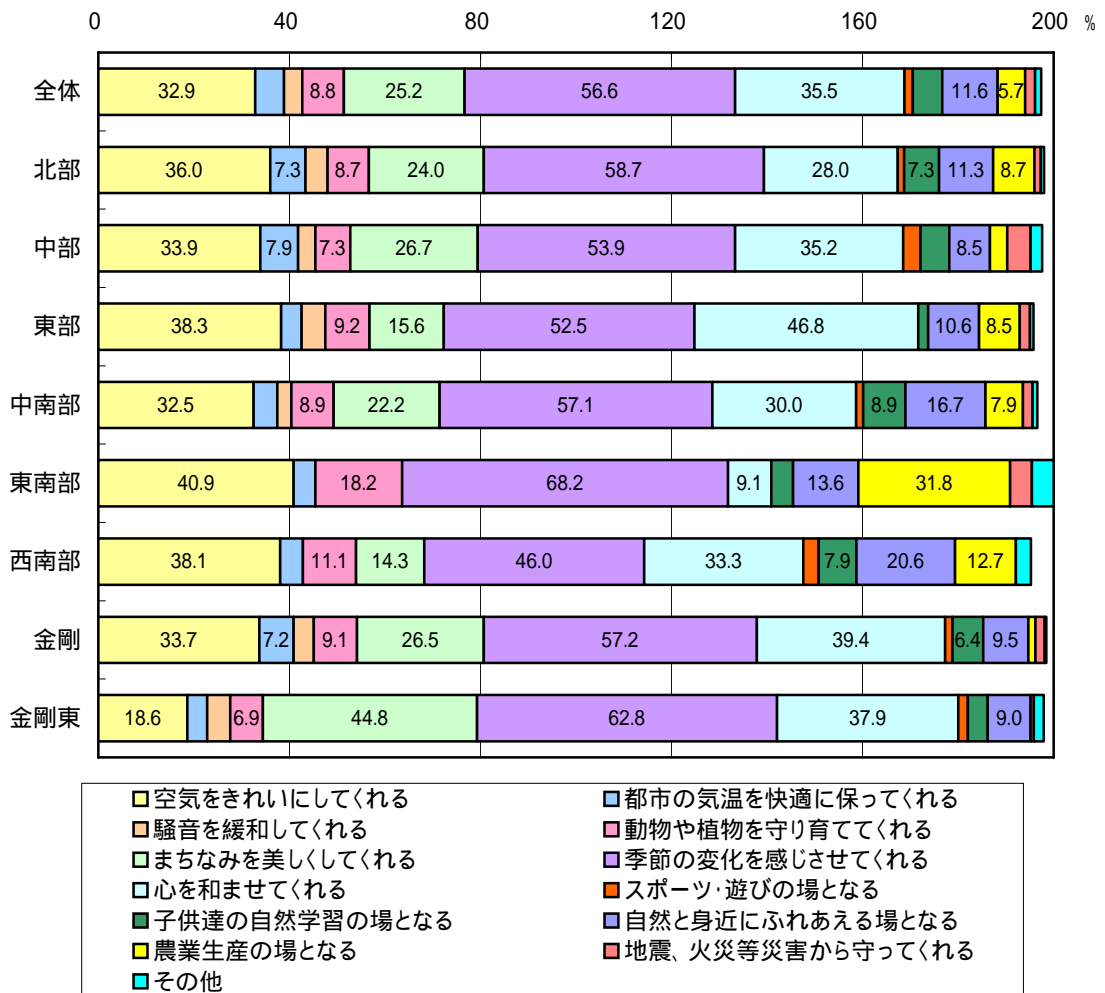


緑の果たす役割

全体では「季節の変化を感じさせてくれる」(56.6%)、「心を和ませてくれる」(35.5%)、「まちなみを美しくしてくれる」(25.2%)といった精神的な効果を認めるものが上位に来ています。また、「空気をきれいにしてくれる」(32.9%)といった機能を認める人も多い結果となっています。

地域別でも傾向に大きな違いはありませんが、住まいのまわりに「街路樹、緑道などの緑」が多い、という回答が多かった金剛・金剛東では「まちなみを美しくしてくれる」と答えた人の割合が比較的高くなっています。

図5-6 緑の果たす役割



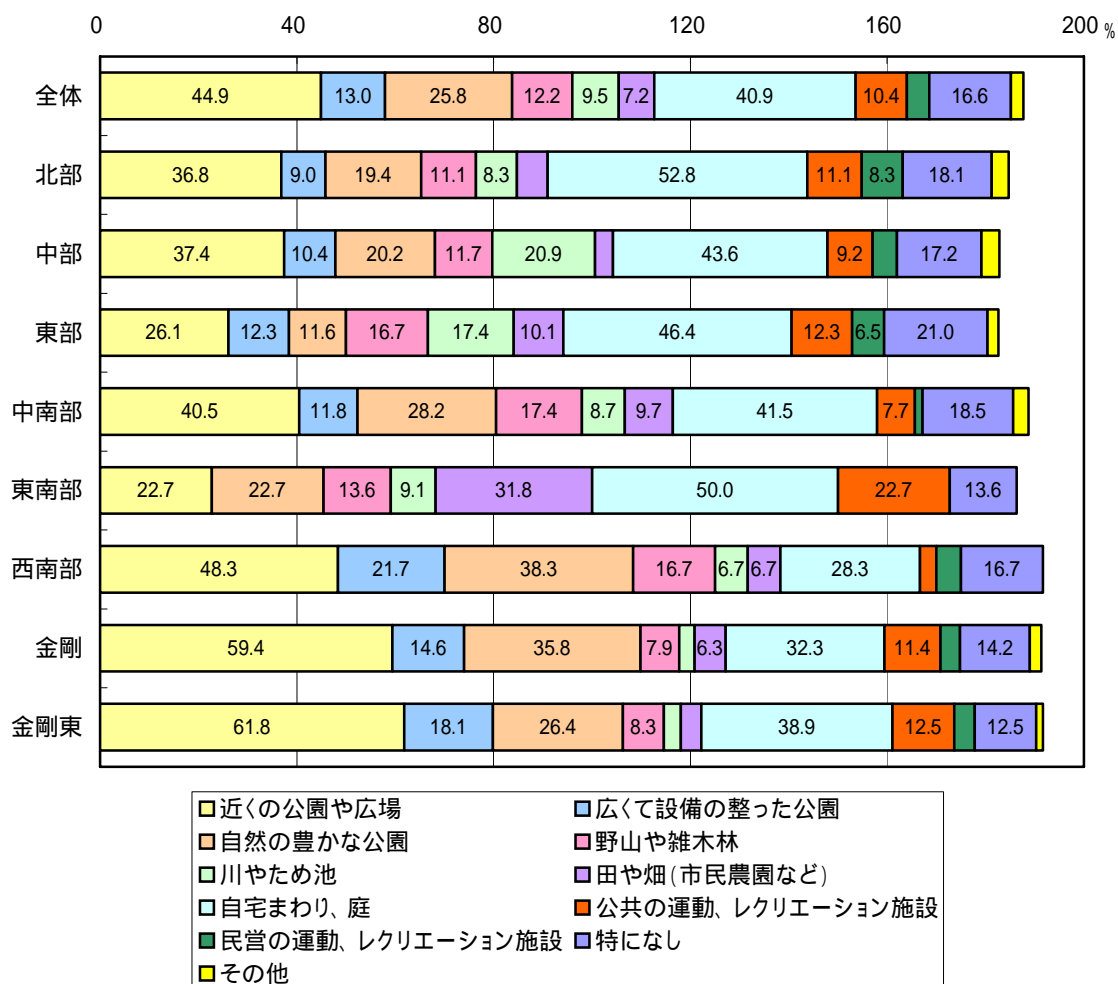
身近な屋外の遊び場、憩いの場

全体では「近くの公園や広場」(44.9%)、「自宅まわり、庭」(40.9%)が多く、やや落ちて「自然の豊かな公園」(25.8%)が続いています。

地域別では、北部・中部・東部・中南部・東南部が「自宅まわり、庭」を第1位に挙げ、西南部・金剛・金剛東が「近くの公園や広場」を第1位に挙げています。

また、東南部では「田や畑(市民農園など)」が第2位に挙がっています。

図5-7 身近な屋外の遊び場、憩いの場

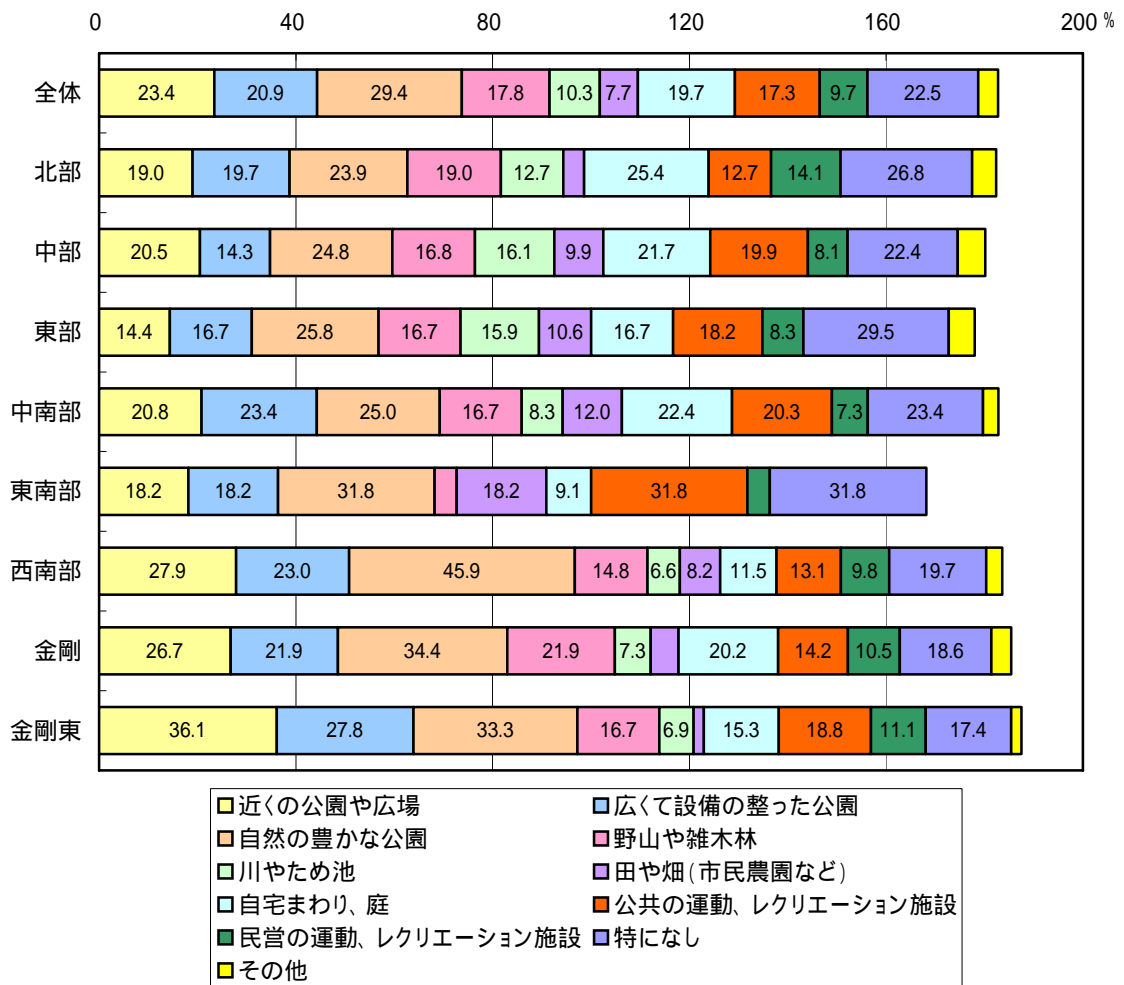


休日のレクリエーションの場

全体では「自然の豊かな公園」(29.4%)、「近くの公園や広場」(23.4%)、「広くて設備の整った公園」(20.9%)、「自宅まわり、庭」(19.7%)と続いているが、「特になし」と答えた人も22.5%いました。

また、「野山や雑木林」と答えた人も17.8%おり、レクリエーション施設ではない、いわゆる自然の野山が住民に親しまれていることがうかがえます。

図5-8 休日のレクリエーションの場

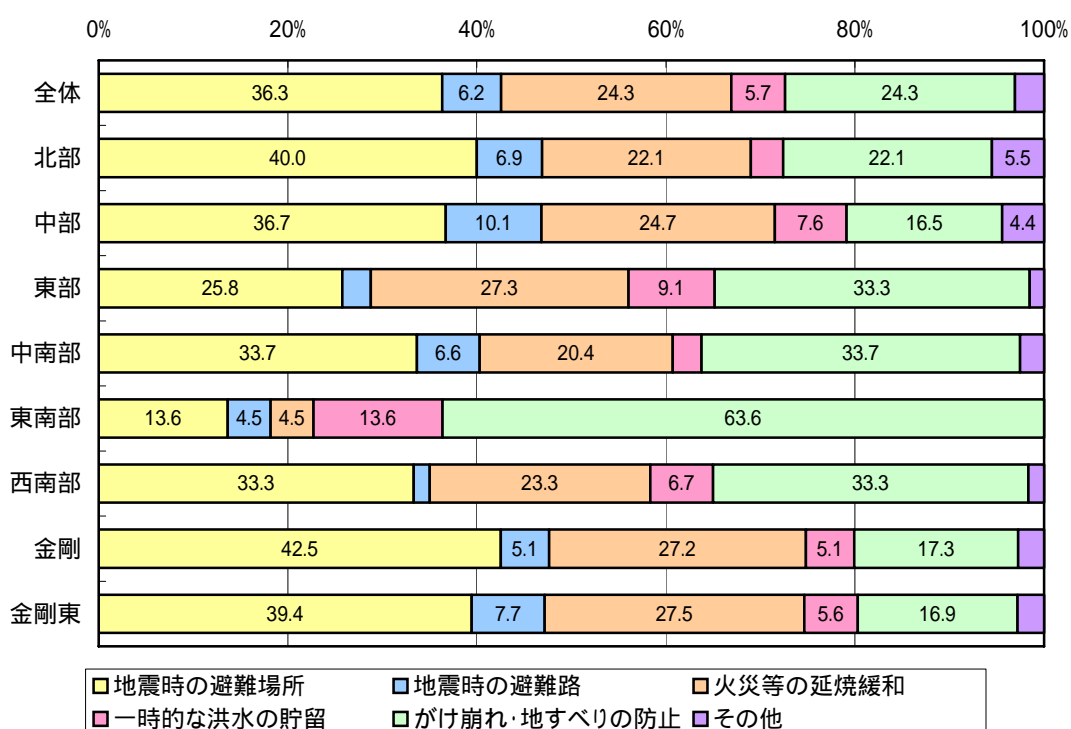


緑が防災に果たす役割

全体では「地震時の避難場所」(36.3%)が第1位で、「火災等の延焼緩和」「がけ崩れ・地すべりの防止」がそれぞれ24.3%で第2位となっています。

地域別でもこの3つが上位に来る傾向が見てとれますが、東部・中南部・東南部・西南部では「がけ崩れ・地すべりの防止」が第1位となっています。

図5-9 緑が防災に果たす役割

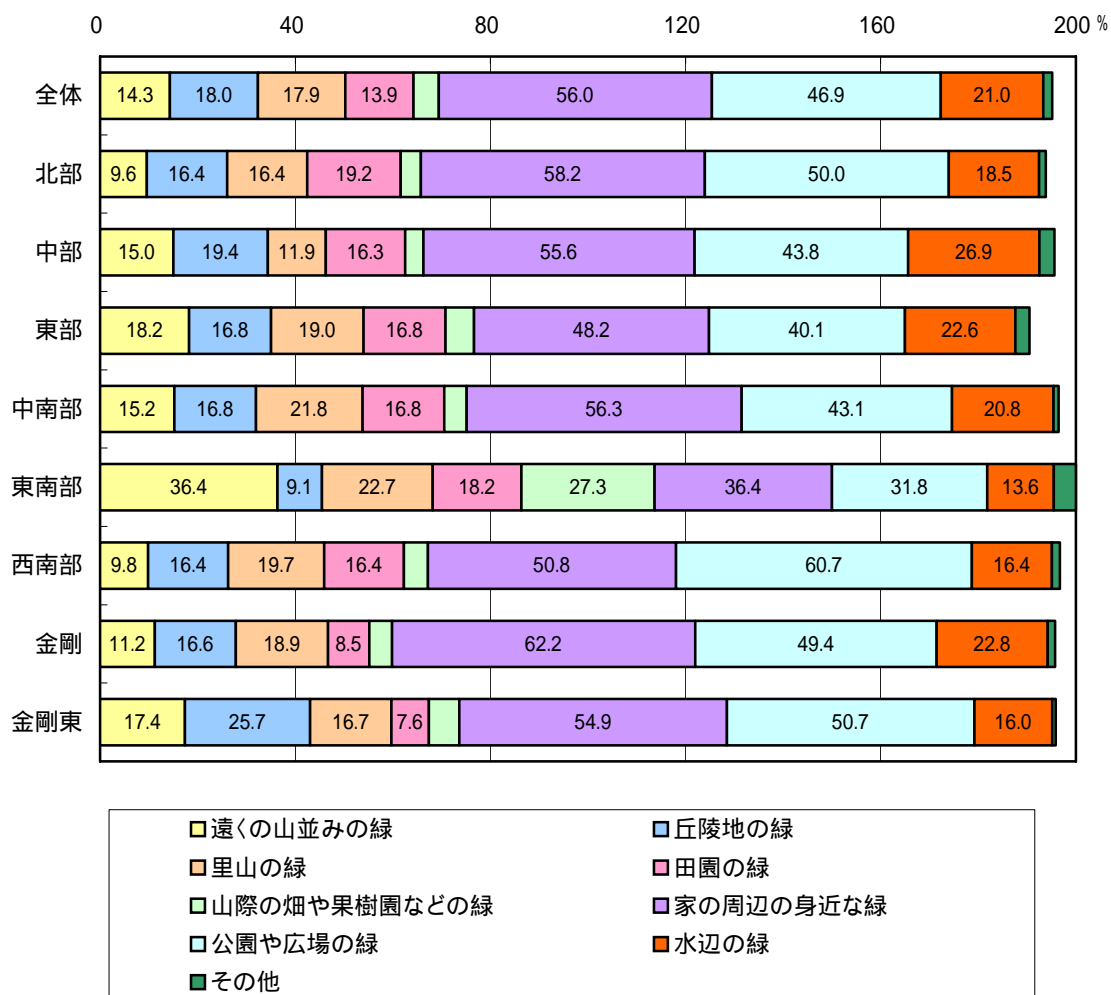


富田林市において守り育てていくべき緑

全体では「家の周辺の身近な緑」(56.0%)が第1位で、次いで「公園や広場の緑」(46.9%)が第2位、やや落ちて「水辺の緑」(21.0%)、「丘陵地の緑」(18.0%)、「遠くの山並みの緑」(14.3%)と続いています。地域別でも、東南部と西南部を除いて上位2つの順位は同じです。

第3位以下をみると、北部で「田園の緑」が第3位、中南部・西南部で「里山の緑」が第3位に挙がっています。これらの地区では、「問2-2 減少している緑」の上位にそれぞれ田園と里山が挙がっており、そういった喪失感の裏返しとしての回答と考えられます。

図5-10 富田林市において守り育てていくべき緑



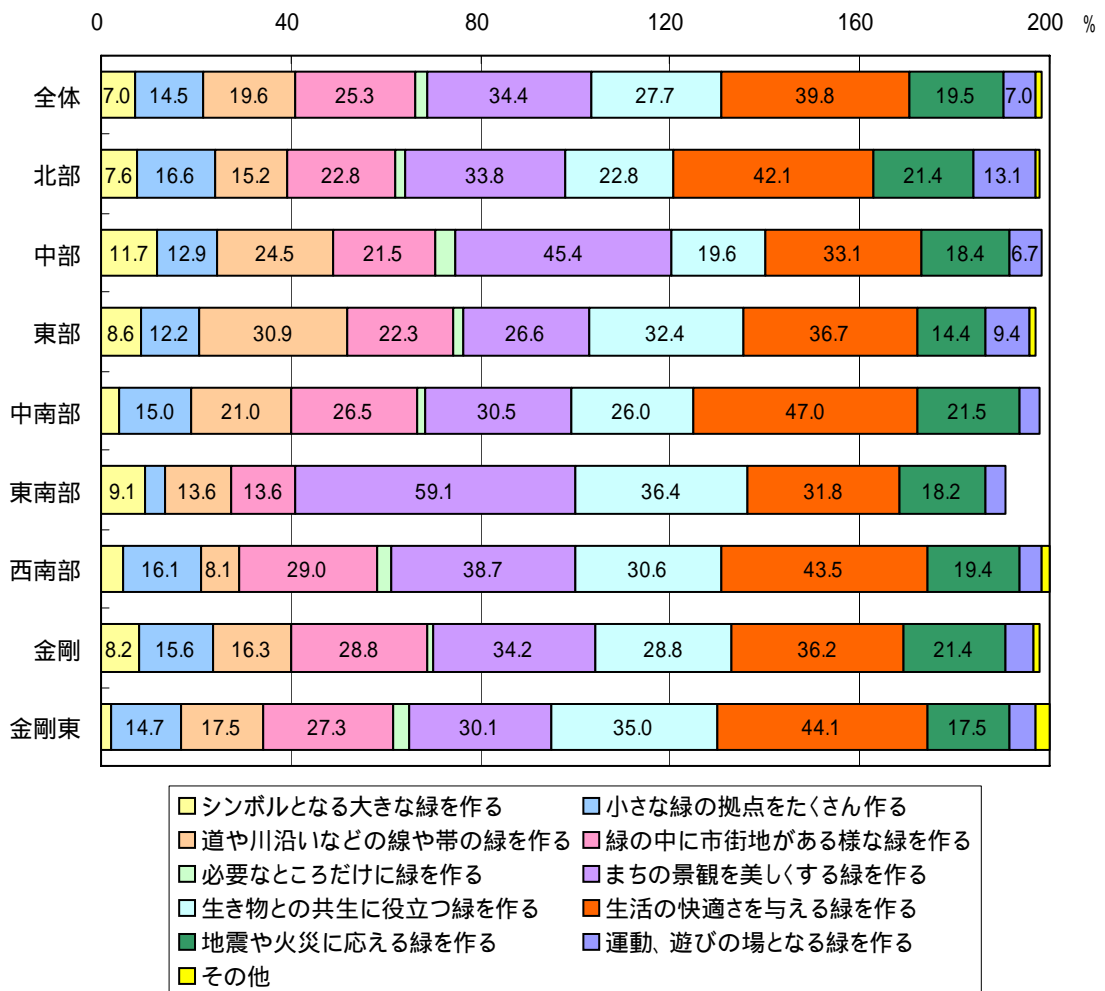
富田林市の緑づくりの目標

全体では「生活の快適さを与える緑を作る」(39.8%)、「まちの景観を美しくする緑を作る」(34.4%)、「生き物との共生に役立つ緑を作る」(27.7%)、「緑の中に市街地があるような緑を作る」(25.3%)等が目標として挙がっています。

地域別では、中部と東南部で「まちの景観を美しくする緑を作る」が第1位になっており、その他の地域では「生活の快適さを与える緑を作る」が第1位です。

また、中部と東部では、他の地域ではあまり多くない「道や川沿いなどの線や帯の緑を作る」が第3位に挙がっており、街路樹のある通り等をイメージした緑づくりが望まれていると考えられます。

図5-11 富田林市の緑づくりの目標

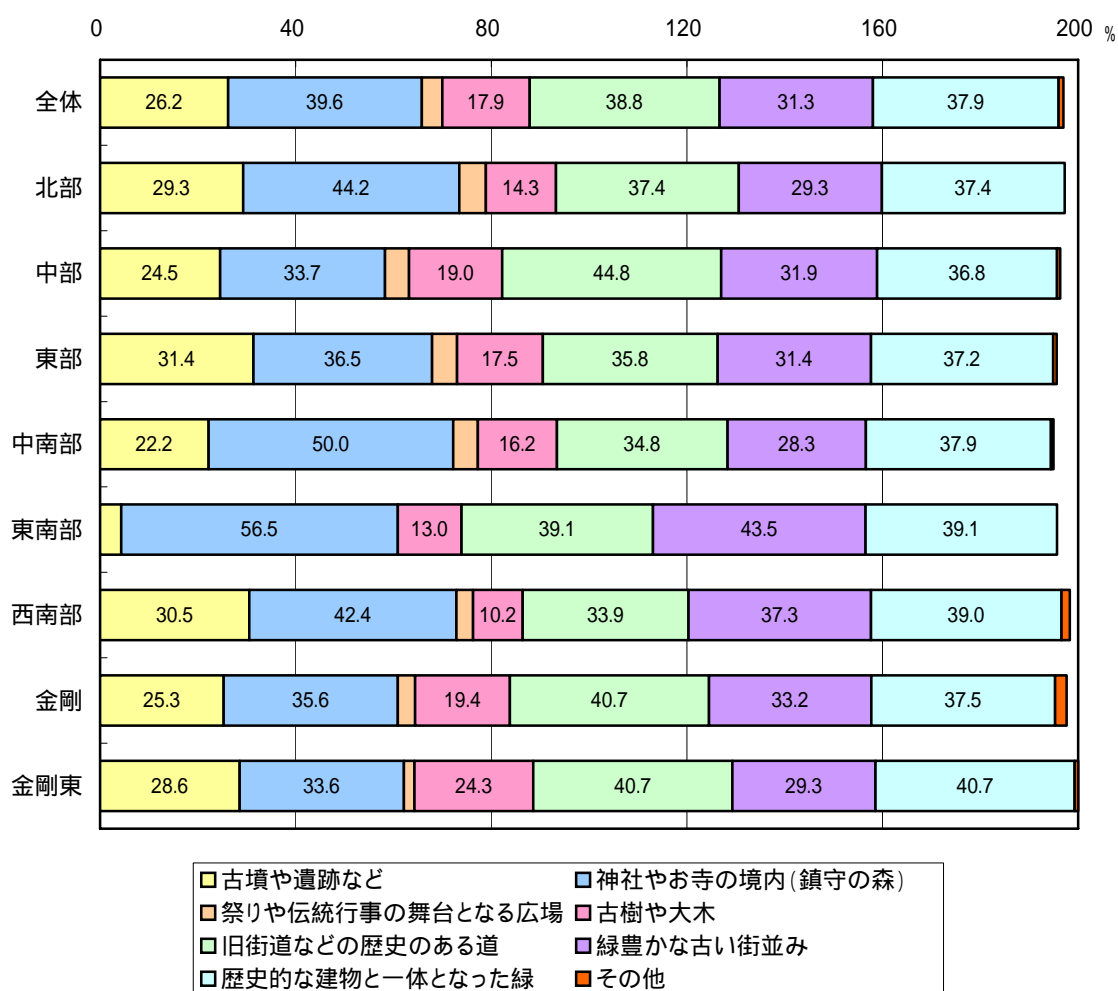


とくに大切な歴史資源の緑

総じて回答が分散しており、「神社やお寺の境内（鎮守の森）」（39.6%）、「旧街道などの歴史のある道」（38.8%）、「歴史的な建物と一体となった緑」（37.9%）、「緑豊かな古い街並み」（31.3%）、「古墳や遺跡など」（26.2%）、「古樹や大木」（17.9%）等となっています。

地域別でも、目立った傾向の違いはありません。

図5-12 とくに大切な歴史資源の緑



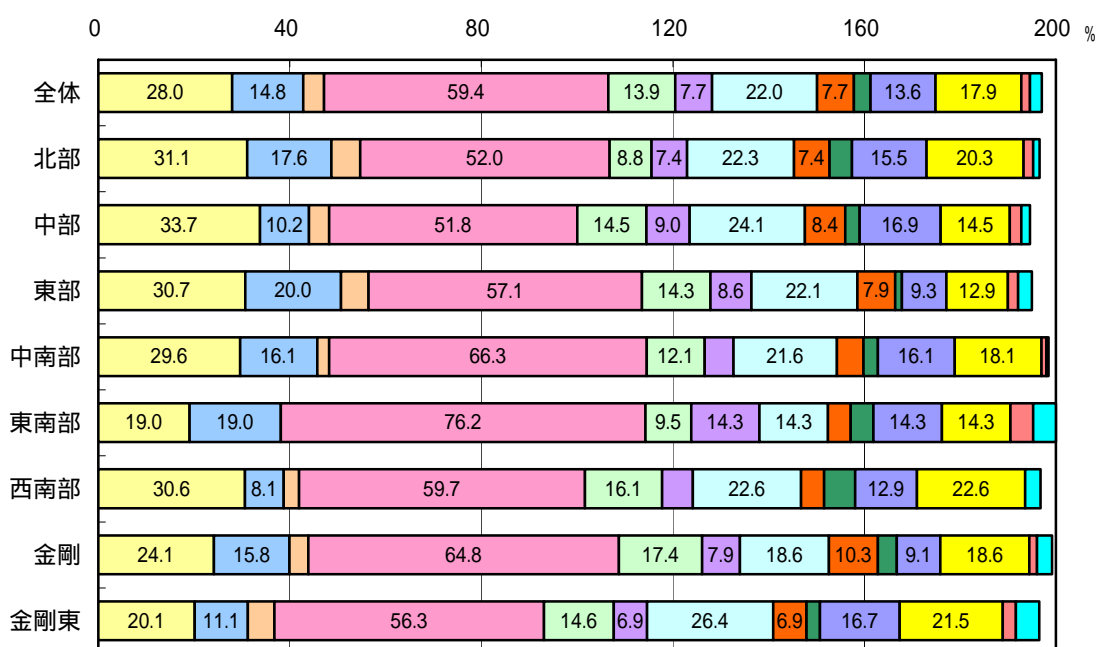
整備すべき公園

全体では「四季の変化が感じられる公園」（59.4%）がもっとも多く、やや落ちて「住まいの近くの身近な公園」（28.0%）、「芝生広場など広い空間のある公園」（22.0%）、「図書館等文化施設と一体である公園」（17.9%）と続いています。

地域別でも、東南部と金剛東を除けば、すべて1～3位の順位は同じになっています。

逆に「本格的なスポーツが出来る公園」や「遊具などの施設がたくさんある公園」という回答は少なくなっており、富田林市においては、「広々として、季節感のある大規模公園」及び「身近な小公園」が望まれていると言えます。

図5-13 整備すべき公園



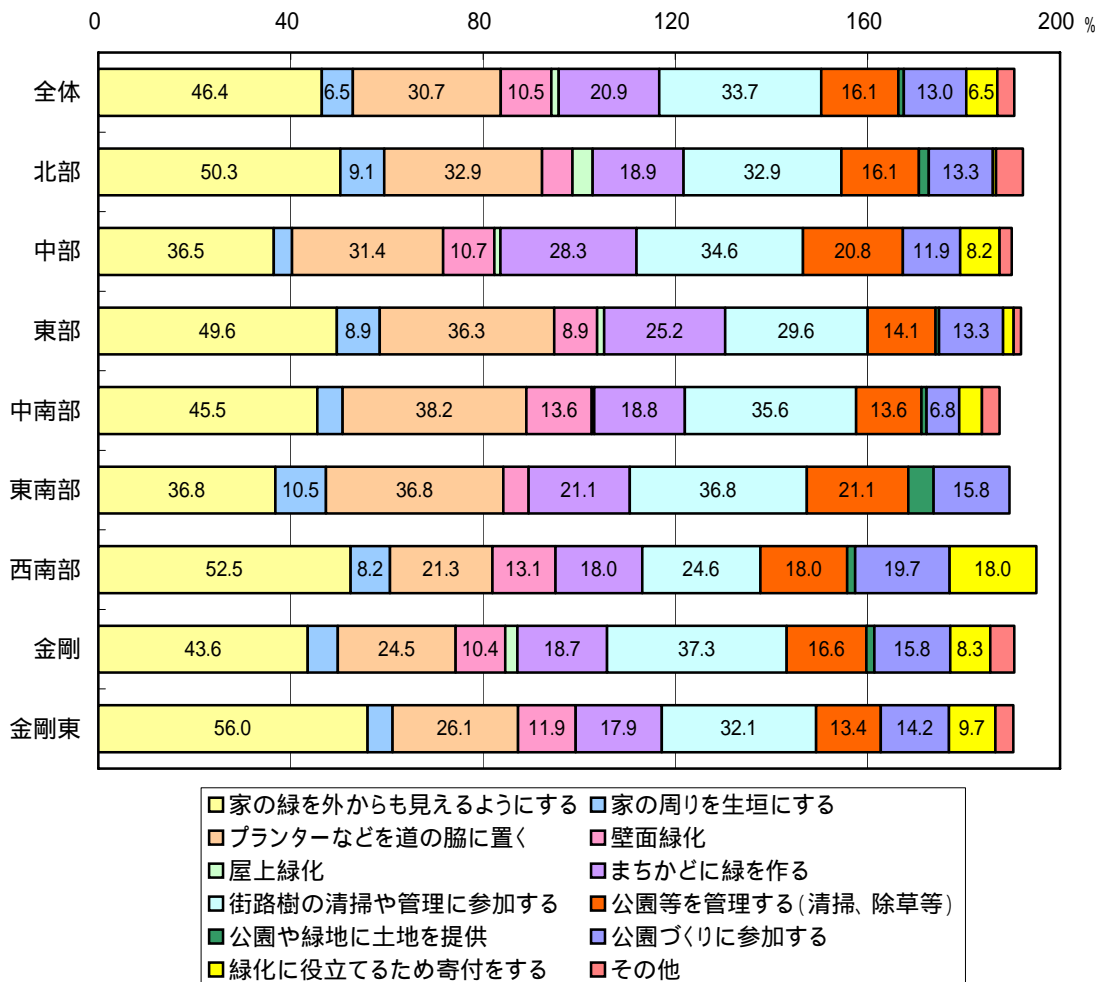
- 住まいの近くの身近な公園
- 簡単なスポーツが出来る公園
- 本格的なスポーツが出来る公園
- 四季の変化が感じられる公園
- 生き物とふれあえる公園
- 遊具などの施設がたくさんある公園
- 芝生広場など広い空間のある公園
- 施設のない原っぱのような公園
- みんなで自由に作っていく公園
- 歴史を感じさせる公園
- 図書館等文化施設と一体である公園
- 特に公園は必要だと思わない
- その他

緑豊かなまちづくりのためにできること

全体では「家の緑を外からも見えるようにする」(46.4%)、「街路樹の清掃や管理に参加する」(33.7%)、「プランターなどを道の脇におく」(30.7%)、「まちかどに緑を作る」(20.9%)、「公園等を管理する(清掃、除草等)」(16.1%)等が上位に挙がっており、自宅に付随する緑の管理や、身近な場所にある公共緑地(公園、街路樹)の管理については、一定の参加が見込めるという結果となりました。

地域別でも、いずれの地域でも「家の緑を外からも見えるようにする」が第1位で、第2位、3位も順番が入れ替わるだけとなっており、とくに地域ごとの目立った違いはありません。

図5-14 緑豊かなまちづくりのためにできること

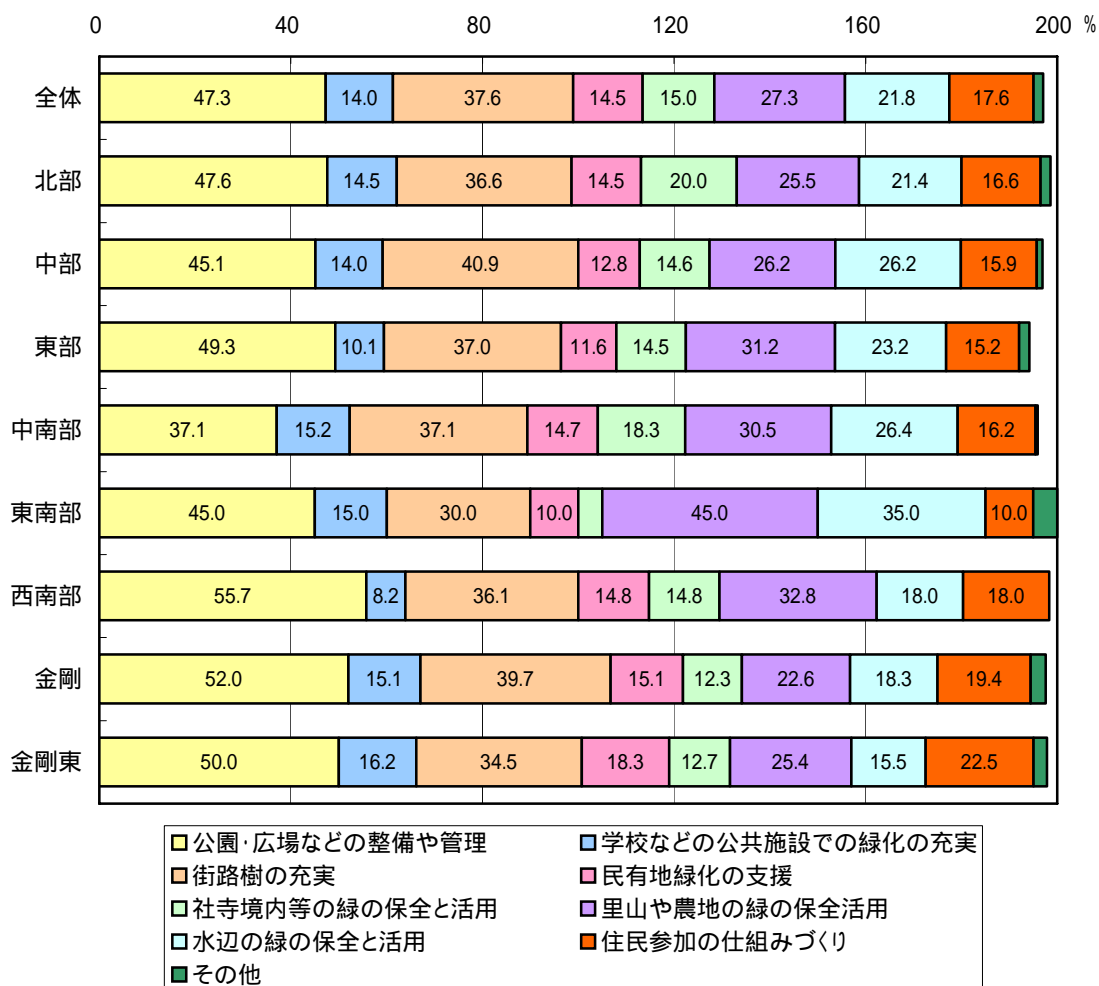


緑豊かなまちづくりのために行政がすべきこと

全体では「公園・広場などの整備や管理」（47.3%）、「街路樹の充実」（37.6%）、「里山や農地の緑の保全と活用」（27.3%）、「水辺の緑の保全と活用」（21.8%）等、どちらかといえば緑地の保全・整備・活用といったハードな項目が上位に挙がっています。

地区別でも、東南部を除いて上位3つの順位は変わらず、とくに地域ごとの目立った違いはありません。

図5-15 緑豊かなまちづくりのために行政がすべきこと

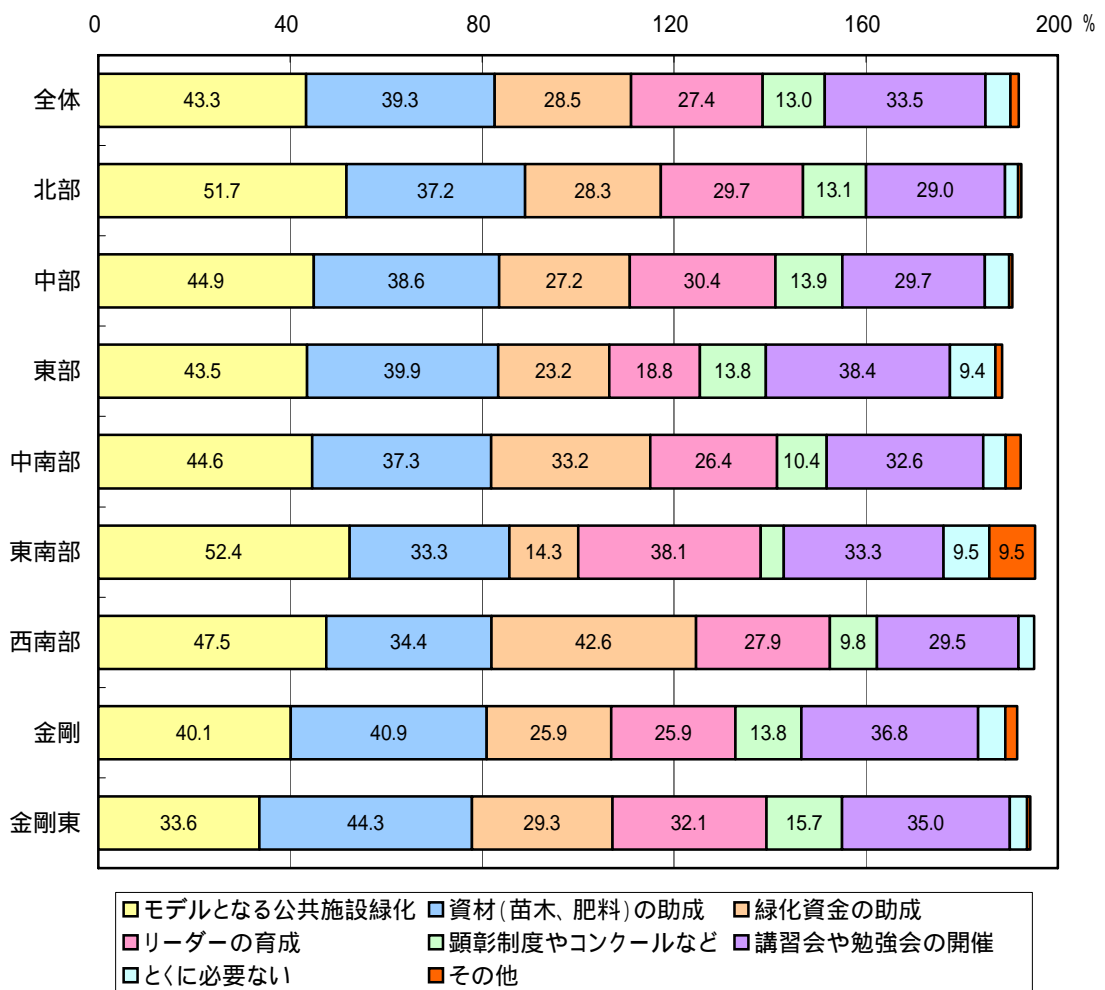


民有地緑化推進に必要なこと

総じて回答が分散しており、全体では「モデルとなる公共施設緑化」(43.3%)、「資材(苗木、肥料)の助成」(39.3%)、「講習会や勉強会の開催」(33.5%)、「緑化資金の助成」(28.5%)、「リーダーの育成」(27.4%)等が上位に挙がっています。

地域別でも傾向に大きな違いはありませんが、金剛・金剛東では「資材(苗木、肥料)の助成」が第1位であり、他の地域では「モデルとなる公共施設緑化」が第1位となっています。また、西南部のみ「緑化資金の助成」が第2位になっています。

図5-16 民有地緑化推進に必要なこと



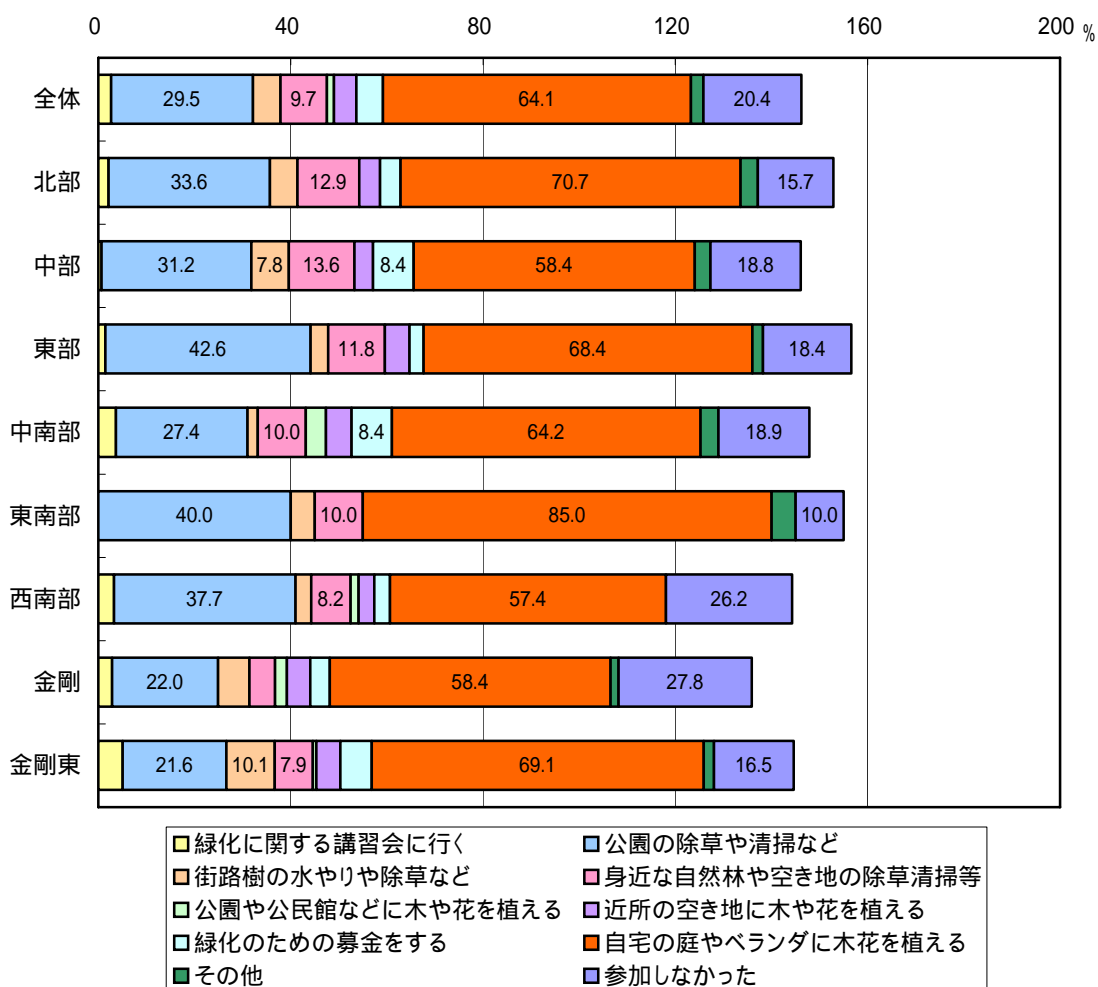
緑化活動への参加経験

全体では「自宅の庭やベランダに木や花を植える」（64.1%）が圧倒的に多く、次いで「公園の除草や清掃など」（29.5%）、「身近な自然林や空き地の除草清掃等」（9.7%）が、参加経験の上位に挙がっています。また、「参加しなかった」と答えた人も20.4%いました。

地域別でみると、いずれの地域でも「自宅の庭やベランダに木や花を植える」が圧倒的に多い点は共通です。

また、西南部と金剛では「参加しなかった」人の割合が若干高くなっています。

図5-17 緑化活動への参加経験

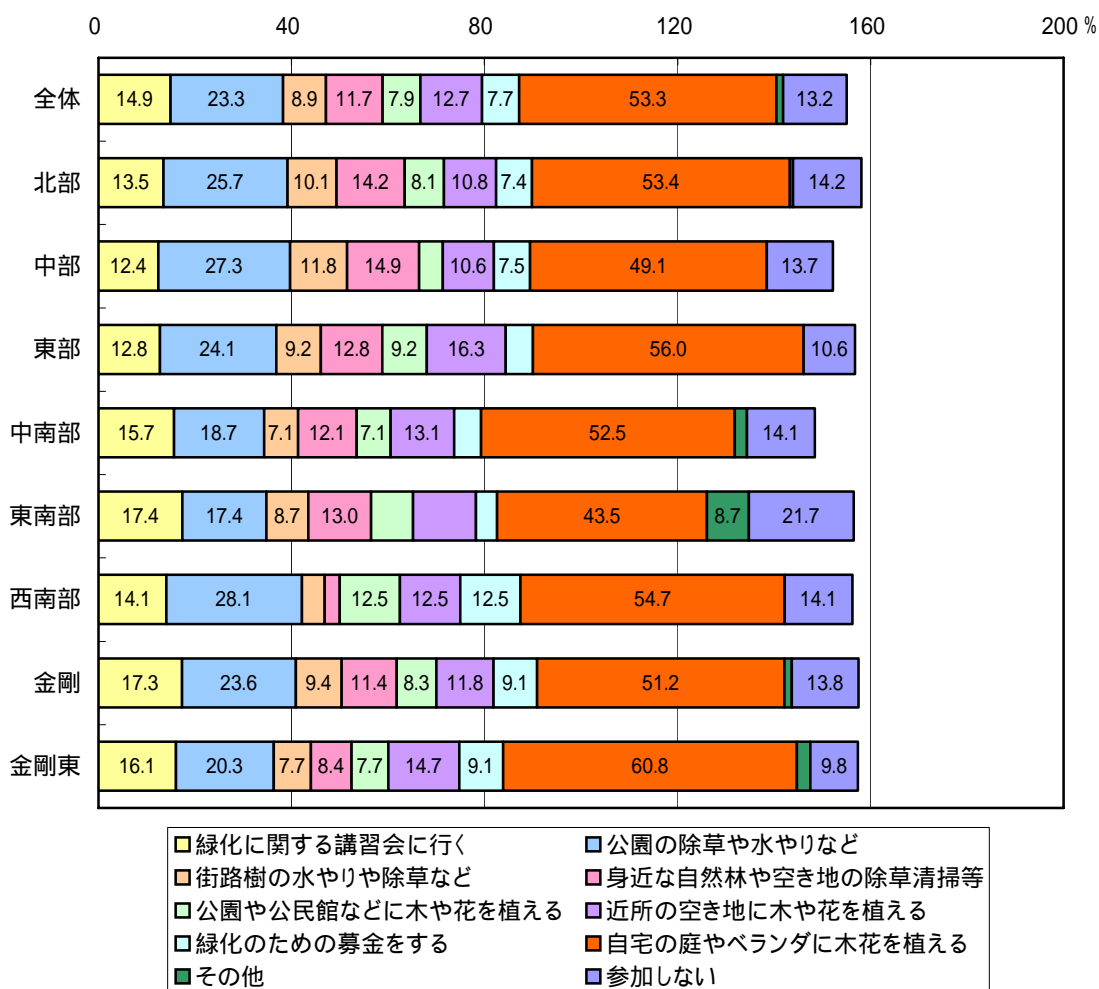


緑化活動への参加希望

全体では「自宅の庭やベランダに木や花を植える」(53.3%)が多く、次いで「公園の除草や水やりなど」(23.3%)、「緑化に関する講習会に行く」(14.9%)、「近所の空き地に木や花を植える」(12.7%)、「身近な自然林や空き地の除草清掃等」(11.7%)等となっています。

参加経験と比べると、もともと参加経験の多い上位2項目がポイントを下げ、それ以外の項目がポイントを上げており、とくに「緑化に関する講習会に行く」は5.5倍となっています。

図5-18 緑化活動への参加希望



緑化活動に参加したくない理由

上の設問で「緑化活動には参加したくない」と答えた人だけを対象に、その理由をきいた設問ですが、全体では「時間がないから」(44.7%)が第1位として挙がっています。

地域別で見ると、中南部と金剛東で「現状に満足しているから」の割合がやや高くなっています。

図5-19 緑化活動に参加したくない理由

